

ノ重要物産ナルコトヲ認識シ大ニ保護獎勵ヲ加ヘ又一方ニ干渉シテ一定ノ規則ヲ設ケ多少ノ税ヲ課セリ而シテ安政二年藩侯組合法ヲ按出シ町役人ニ命シ組合ヲ組織セシメ會所ナルモノヲ設ケ之ヲ產物會所ト稱シ他國へ輸出スル際ハ必ス會所ニ出シ檢印ヲ受ケシメタリト云フ降テ明治維新ノ際其保護獎勵ハ廢止セラレ加フルニ斷髮令ヲ布カレ一大頓挫ヲ來シタリト雖モ明治十二、三年頃ニ至リ飯田元結獨特ノ長所ハ到ル處ニ喧傳セリ爲メニ漸次恢復シ明治二十一年一月ニ至リ再ヒ元結組合ヲ組織スルニ至レリ然レトモ近年綿絲ヲ以テ心トシ製造セシ元結ノ價格廉ニシテ需用者日ニ増加シ紙製元結ヲ壓倒スルニ至リ明治三十年以來引續テ悲境ニ沈淪セリ

以上ノ如ク紙元結製造業ハ年々衰運ニ傾キ現今ノ狀態ニテハ是カ回復ハ得テ望ムヘカラサルモノ、如シ然レトモ絲元結ハ紙元結ニ比シ強靱ナラス其彈力光澤ノ紙元結ニ劣レルモノアルニヨリ需用者ニ於テ是カ善惡ヲ識別シ其眞價ヲ知了スルニ至ラハ再ヒ需用増加ヲ來スナルヘシト雖モ現今ノ衰退ヲ以テ到底絲元結ニ競争センコトハ難事ナルノミナラス進シテ是カ善後策ヲ講スルカ如キモ亦當業者ノ熟慮ヲ要スル點ナリトス而シテ本品ノ製造力此地ニ起リタル所以ハ原料タル晒紙ノ產出地タルト其紙質ノ強靱ニシテ而モ光澤アルカ如キ他紙ニ優レルモノアルニ因ルナリト云フ

五、原料ノ供給

原料タル晒紙ハ飯田町ヲ中心トシテ其附近ニ產出スルモノヲ以テシ他ヨリ供給ヲ仰クコトナシ

六、販賣手續

本品ノ販賣手續ハ元結間屋ナルモノアリテ是ヨリ大坂、京都、東京、名古屋等各都市ニ於ケル商店ト取引ヲ爲スヲ普通トス

十、鐵製品

一、産額

數	價	
	額	量
八九四、一六五挺	五七、一九三枚	九一、一三六圓
三五、五八八圓		

二、主要産地

上水内郡、小縣郡、諏訪郡、上伊那郡、長野市

三、製造戸數及職工數

戸數	職工數
五百四戸	八百七十八人

四、製産ノ狀況

重ナル生産品ハ鑄、鋸及鍋、釜ニシテ何レモ家内工業トシテ營マレ大組織ヲ以テ是カ製造ニ從事スル者ナシ然レトモ鑄ハ上水内郡古間、柏原、中郷村ノ特産ニシテ寛政ノ始メ荒井某ナルモノ越後ノ國三條町ニ於テ鍊鐵ノ技ヲ習得シ鑄製造ノ業ヲ開始シ其後多クノ徒弟ヲ養成シ始メテ多數ノ產出ヲ見ルニ至レリ爾後製法ニ改良ヲ加ヘ倍々發達シ明治九年第一回内國勸業博覽會ニ出品シ褒賞ヲ受ケ大ニ聲價ヲ得博ク全國ニ知ラル、ニ至レリ隨テ逐年販路ヲ擴張スルニ至リシヲ以テ同業者相合同シテ明治二十九年十一月無限責任信濃物産販賣購買組合ヲ設立シ協力一致シテ益々盛況ヲ圖リツ、アルヲ以テ將來望ヲ囑スルニ足ル

鋸ハ諏訪郡ニ於ケル特産ニシテ文化ノ頃江戸ノ人藤井某ナルモノ諏訪町ニ移住シ之ヲ製作セシニ創マレリ且多數ノ徒



第ヲ養成シ以テ郡内各所ニ散在セシメ明治初年ノ頃ハ盛ニ製作シタリシモ明治十五、六年ノ頃西洋鋼ヲ使用シタル爲メ弊價ヲ失墜シ著シク販路ヲ縮少シ頗ル悲境ニ陥リタルモ爾後漸次改良ヲ加ヘ明治十九年頃ヨリ稍ヤ弊價ヲ高メ逐年産額ヲ増セシノミナラス着々販路ヲ擴張シ近年ニ至リ最モ盛況ヲ極メ而カモ將來益々好望ノ傾向ニアリ次ニ鍋、釜ニ至リテハ僅カニ二、三ノ製造所アルモ規模稍ヤ小ニシテ製産額モ亦甚タ少ク其製造状態ハ特記スヘキモノナシ

五、販路

鎌ノ販路ハ千葉、栃木、神奈川、静岡、山梨、群馬、埼玉、東京等各府縣ヲ主トシ其他ノ地方ヘモ多少販出ス、鋸ハ東京、名古屋、岐阜、山梨、群馬、新潟、埼玉ノ各府縣ニ販出スト云フ

十一、眞綿

(松本町ニ於ケル生製狀況ニ就キ調査ス)

一、産額

明治二十五年	四〇〇貫
全三十年	二二〇〇貫
全三十五年	三〇〇〇貫
全三十六年	三五〇〇貫
全三十八年	四〇〇〇貫

二、種類別

製品ノ形状ニ依リ之ヲ區引スレハ左ノ如シ

大判(一尺三寸角)

中判(一尺二寸角)  
小判(八寸角)  
但寸尺ハ曲尺ヲ用ツ

三、主要産地

東筑摩郡松本町ヲ以テ最主要産地トス

四、製造戸數及職工數

工場組織ノモノ	五戸
家内工業ノモノ	十四戸
職工數	百八十七人

五、起源及沿革

本業ノ起源ハ之ヲ知ルニ由ナシ然レトモ明治二十年頃迄ハ各自家用ニ供スル爲メ製造シ來リシモノニシテ之ヲ專業トスル者無カリシモ爾來本品ノ需要増加シ來リシヲ以テ之ヲ專業トシテ營ムモノアルニ至レリ然レトモ當時ノ製品ハ粗悪ニシテ而モ産額僅少ナリシヲ以テ到底他府縣ヘ搬出スルニ至ラザリシモ其後蠶業ノ發達ニ伴ヒ原料ノ撰擇製造法ノ改良等ハ遂ニ他府縣ノ需要ヲ喚起スルニ至レリ從テ製造者亦増加シ遂ニ今日ク好況ヲ見ルニ至リ而モ尙駁々トシテ進歩シツ、アリ

六、製産ノ狀況

製造状態ニ就テハ特ニ記スヘキモノナキモ本品ハ防寒用トシテ需用最モ多ク從テ冬季ヲ以テ最モ繁忙ノ時期ナリトス

七、原料ノ需要供給

長野縣



内國産春、夏、秋蠶種出殻繭及玉繭釜揚リ繭ヲ原料トスルモノナルヲ以テ供給充分ナリ

八、製産費及收益ノ比較

本品ノ製産費ハ平均十貫匁ニ付金百八十圓ヲ要ス之ヲ内譯スレハ左ノ如シ

原料費	百三十圓
製造費	五十圓

收益ハ原料及職工ノ善悪ニ依リ一定セス

九、販出額及仕向地

機業用トシテハ大島紬、流球紬等ノ産地へ輸出シ防寒用トシテハ北海道、新潟縣、青森縣等ニ輸出スルモノ多シト云フ

十、重ナル製造者ノ氏名

青山 善左衛門 田 中 清 作、 丸 山 勝 太 郎

(東筑摩郡松本町ニ於ケルモノ)

十一、疊 絲

一、産額

數量	二三八七九貫
價額	六五、五六六圓

二、主要産地

本品ハ長野市ヲ中心トシテ比隣ノ各村ニ於テ主トシテ産出シ是ニ亞クモノ北安曇郡、更級郡、上水内郡等ナリトス

三、製造戸數及職工數

戶數	三千七十三戸
職工數	九千六百四人

四、製産ノ狀況

本業ノ起源ハ享和年間ニ在リ當時ハ其産額微々トシテ振ハサリシモ明治維新ノ頃ヨリ漸ク隆盛ニ向ヒ爾來年ヲ逐フテ盛大トナリ明治二十年ノ頃大麻栽培教師ヲ聘シ各村ニ巡回講習ヲ爲サシメ以テ奨勵ニ努メタル結果善良ナル原料ヲ得ルニ至リ爲メニ精良ナル本品ヲ産出スルニ至レリ降テ明治二十七年ノ頃一時價格ノ騰貴セシヲ以テ原料大麻ノ栽培區域ヲ著シク擴張シ産額モ亦増加シ爾來年ヲ逐フテ現時ノ隆盛ヲ見ルニ至レリ而シテ本品ノ製造ハ大麻ヲ細ク分割シ更ニ指頭ニテ紡キ合セ微温湯ニ涉シ温濕ノ後策ニ上ケ直ニ繰車ヲ以テ絲繰ヲ振リ合セ稻稈若クハ布片ニテ摩擦シテ光澤ヲ出シ後桿ニ掛ケ乾燥シテ完成ス而シテ斯業ハ農閑又ハ冬期ニ於テ中流以下ノ婦女子是ニ從事シ利潤甚多シト云フ

五、原料ノ供給

本品ノ製造原料タル大麻ハ上水内郡、北安曇、更級ノ各郡ニ産出スルモノヲ使用シ其他ノ地方ヨリ是レカ供給ヲ仰クコトナシト云フ

六、仕向先ハ主トシテ東京、群馬、埼玉等ニ仕向ケラル、ト云フ

十三、天、柞蠶絲

一、天蠶絲

(イ) 産額	數量	價額
	四〇〇貫	四〇〇〇圓
		四〇〇〇圓

長野縣



(天、柞蠶絲ハ其産額甚タ多カラスト雖モ本縣ノ重要産物トシテ視スベキモノナルヲ以テ爰ニ之ヲ掲ク)

(ロ) 主要産地

南安曇郡有明村、西穂高村、烏川村、小倉村、三田村等ヲ其主要産地トス

(ハ) 製造戸數

戸數

八十六戸

(ニ) 事業ノ起源及沿革

天蠶絲ハ今ヲ去ル八十年前即チ文政年間ノ頃有明村ニ於テ山林ノ雜木中樸、檜等ニ寄生シタル野生ノモノヲ採收飼育シタルヲ以テ創始トス然レトモ當時ハ只天然林ニ放養シタルニ止マレルモ弘化年間ニ至リ稍ヤ盛大トナリ人造ノ飼養林ヲ設ケ飼育スルニ至リ尙文久年間ニハ其附近ノ村落ニ波及シ互ニ樺櫨ノ植林ニ努メ飼養スルモノ倍々多キヲ致シ爾來年ヲ逐テ發達シ方今ニ在リテハ樺林ニシテ天蠶若クハ柞蠶ヲ飼養セサル所ナキニ至レリ而シテ製絲ノ方法ノ如キモ往時ハ頗ル不完全ニシテ只指頭ニテ繰絲スルニ止マリシカ收繭ノ増加ニ伴ヒ漸次改良ヲ加ヘ普通家蠶繭製絲器械ニ模倣シ明治七年天蠶製絲機械ヲ設置シ水力ニテ之ヲ運轉シ生絲ヲ製造スルニ至レルモ家蠶製絲ノ如ク未タ大組織ノモノアルナク何レモ家内の工業トシテ營ムニ過キス近年ニ至リ天蠶モ亦家蠶ノ如ク種々ノ病毒發生シ四齡後ニ於テ「タレコ」トナルアリ又凝粒子(家蠶ノ凝粒子ト害毒同シト云フ)病ニ罹ルモノ多數アリテ現今是カ豫防ニ專ラ苦心シ益々本業ノ改善發達ヲ企圖シツ、アリ而シテ天蠶絲需用ノ趨勢ハ縮緬、袴地、西陣織、襦袢襟、洋服地、蝙蝠傘地等ニシテ到底是カ供給ヲ充タスニ足ラサルノ盛況ニアリ然レトモ前途甚タ憂フヘキモノアリ他ナシ飼育林ノ漸次減少スルコト是ナリ現ニ有明村ニ於テ近年烏川ノ沿岸一帯ノ飼育林凡ソ四萬坪餘ハ開墾セラレテ桑園ト化セリ此他少許ノ開墾ハ枚擧ニ遑アラス是收利ノ比較的家蠶ニ及ハサルニ由ルノ現象ニシテ本業ノ爲メ悲ムヘキ事ナリトス爰ヲ以テ生産地ノ有志ハ

飼育ノ改良除害ノ方法ヲ專攻シ將來ノ發展ヲ期シツ、アルヲ以テ前途有望ナリト信スルニ足ル

(ホ) 原料供給

天蠶繭ハ地方ニ於テ生産スル所ノモノヲ全部供給スルト雖モ尙ホ不足ノ現況ナリ

(ヘ) 販路

主トシテ機業地タル桐生、足利其他關東、關西ニ涉リ廣ク販出シツ、アリ

一、柞蠶絲

(イ) 産額

數 量

五五五貫

價 額

二四、九七五圓

(ロ) 主要産地

本品ノ主要産地モ亦南安曇郡有明村、西穂高村、烏川村、小倉村、三田村等トス

(ハ) 製造戸數

戸 數

百十八戸

(ニ) 事業ノ起源及沿革

本縣ニ於ケル柞蠶ハ明治十三年有明村ニ曾根原某ナル者茨城縣勸業課ヨリ二十一顆ノ種繭ヲ請ヒ受ケ天蠶飼養ノ方法ニ基キ採卵シテ之ヲ飼育セルヲ創始トス而シテ該種ハ二化性ニシテ性質強壯且天蠶飼養後ノ樹林ヲ利用スルコトヲ得ルヲ以テ數年ナラスシテ各村落ニ普及シ益々隆盛ヲ來タシ現今ニ至リテ飼育林ノ不足ヲ告クルカ如キ盛況トナリ産額ハ未タ天蠶ニ及ハサルモ反テ遠カラステ天蠶ヲ凌駕スルノ傾向アリ而シテ其製絲方法ノ如キハ天蠶製絲ト同一ノ方法ニ



ヨリ繰繰セラレ用途モ亦異ナラス

抑モ天、柞蠶ノ業ハ農家ノ副業トシテハ有望ノ事業ニシテ且飼育ノ際監督番人等共同シテ之ヲ行フトキハ家蠶ノ十分ノ一クモ手数數ヲ要セサルモノニシテ從テ利益ノ多大ナル殆ト他ニ其例ヲ見ス産額ハ未タ僅少ノ額ニアリト雖モ家蠶ニ比シ其利收ニ於テ優ル所數等ナレハ將來益々本縣ノ重要品トシテ目セラレヘシ

(ホ) 原料供給

飼育者各自ノ收購ヲ以テ製造スルノ外他ヨリ原料ヲ仰クコトナシト云フ

(ハ) 販路

本品モ亦主トシテ機業地タル桐生、足利其他關東、關西ニ涉リ廣ク搬出セラレシ、アリ

### 十四、凍 豆 腐

一、産額

數 量

二、四七二、一二四連

價 額

六二〇三六圓

二、主要産地

縣下各郡ニ産出スト雖モ就中諏訪、下高井、北佐久、下伊那ノ各郡ニ於テ主トシテ産出ス

三、製造戸數及職工數

戸 數

四百九十戸

職 工 數

千百七十人

四、製産ノ狀況

本品ハ各郡トモ冬期間ニ於ケル農家ノ副業ニシテ一定ノ工場アルニアラス何レモ家内工業ニ屬セリ

五、販路

製産額ノ半ハ縣内ニ於テ需用セラレ其他ハ東京府、群馬、新潟其他ノ各縣ニ販出セラレ

### 十五、蠶 表 及 莫 産

一、産額

蠶 表

數 量

七六、六六三枚

價 額

五、九三八圓

莫 産

數 量

九、二二三枚

價 額

一、一一一圓

二、主要産地

蠶表ハ主トシテ下水内郡常盤村ニ於テ産出シ柳原、太田、秋津及岡山ノ各村亦之ヲ産スレトモ其額尠少ナリ

三、製造戸數及職工數

戸 數

千六十九戸

職 工 數

二千三百二十七人

四、製産ノ狀況

本縣ニ於テ蠶表ヲ製出スルニ至リタル濫觴ハ天正年間下水内郡柳原村大字山口組ノ某ナルモノ俗ニ種田ト稱スル所ニ野生ノ蘭草ヲ發見シ之ヲ培養シ蠶表ヲ製出シタルヲ以テ嚙矢トス然レトモ當時ハ蠶表ノ製造未タ盛ナラザリシヲ以テ粗悪ナルモノヲ織リ自家用ニ供スルニ止マリシカ爾來本品ノ需用増加シ爲メニ盛ニ製出スルニ至リ茲ニ初メテ莫産ノ

長野縣



名稱ヲ附シ廣ク販出センコトニ努メタルヲ以テ販路益々擴大シ蠶表製造ノ基礎ヲナシ遂ニ今日ノ隆盛ヲ致セリ而シテ柳原村ハ元來斯業ノ鼻祖ナルニ却テ衰頹ヲ來シ常盤村ニ於テ今日ノ隆盛ヲ致スニ至リシ所以ノモノハ即チ同村ノ棉花栽培ノ旺盛ニアリトス同村農家ノ婦女子ハ農閑ニ綿布ノ製織ニ從事スルヲ常トセシカ實永年常盤村大字常盤字柳新田組ニ住セル姓不詳久七ナル者其妻ヲ柳原村ニ娶リ妻女ノ生家ニ於テ盛ニ蠶表ヲ製スルノ故ヲ以テ彼ハ生家ヨリ蘭草ヲ得テ之ヲ培養シ蠶表ノ製作ニ從事セリ是常盤村ニ於ケル斯業ノ起源トス而シテ棉ハ逐年收穫減少シ而モ蠶表ノ製作ハ却テ利益多キモノナルヨリ比隣是ヲ模倣スル者多ク遂ニ附近ノ諸村落ニ普及シ益々斯業ノ隆盛ヲ來シタルモ明治十八年頃ニ至リ粗製濫造ノ弊ヲ生シ爲メニ大ニ産額ヲ減少シ爾來微々トシテ振ハサリシモ明治三十五年九月ニ至リ當業者協同一致シテ下水内蠶表改良組合ヲ組織シ事務所ヲ常盤村ニ置キ益々斯業ノ改良發達ヲ企圖シタル結果往時ノ盛況ヲ再現スルニ至レリ

次ニ莫産ハ更級郡鹽崎村大字長谷ヲ主産地トス本品ハ由來長谷莫産ト稱シテ其需用廣大ナリト云フ

五、原料ノ供給

更級郡鹽崎村ハ往昔濕地多ク田園甚々少カリシカ故ニ蘭草ヲ栽培シ農家ノ經濟ヲ維持シタリ然ルニ其後文政年間ノ頃時ノ領主千曲川ヨリ疎水工事ヲ起シ水利ヲ謀リ灌漑排水ヲ便ニセシヲ以テ其濕地ハ變シテ乾田トナリ蘭草ノ栽培大ニ衰ヘタルモ後弘化年間ニ至リ蘭草ニ代フルニ三角蘭ヲ水田ノ一隅ニ植付ケテ自家用ノ莫産ヲ製スルモノ十數戸ニ及ヒタリ而シテ三角蘭ノ栽培ハ普通蘭草ニ比シ容易ニ且強靱ナルヲ以テ漸次其生産額ヲ増加セシノミナラス明治二十年頃ヨリハ益々是カ栽培者多キヲ加ヘ其數二百有餘戸ニ及ヒ冬間ニ於テ莫産ヲ織製スルニ至リ一時ハ非常ナル繁盛ヲ極メタリ然ルニ近來米價ノ暴騰ニ隨ヒ蘭草ノ栽培ヲ減少シタルニヨリ今日ハ大ニ衰退ヲ來シタリ然レトモ常盤村ノ蠶表及鹽崎村ノ莫産ハ何レモ原料蘭草ノ栽培盛ナルニ基キ起リタル事業ナルヲ以テ其原料蘭ノ栽培衰退セリト云フト雖モ

未タ原料ノ供給ニ不足ヲ感スルカ如キコトナシト云フ

六、販路

本品類ハ主トシテ縣内ノ需用ニ止マリ他府縣ニ搬出スル額ハ多カラサルモノ、如シ

(附言)

○花蓮ノ製産況狀

一、産額	數	量
	十二枚	
價額		八十四圓

二、主要産地

下水内郡常盤村

三、製造戸數

本品ノ製織ハ之ヲ專業トスル者ナク蠶表製造業者ノ兼營ニ係リ而モ其兼業者ハ僅カニ三、四戸アルニ過キス

四、製産ノ狀況

下水内郡常盤村ニ於テハ往古ヨリ蘭草ヲ栽培シテ蠶表ヲ製造シ漸次發達シ斯業ノ隆盛ヲ來タシタルコト前ニ陳フルカ如シ而シテ明治三十五年九月當業者協同シテ下水内蠶表改良組合ヲ組織シ是カ改良發達ヲ企圖シ且岡山縣ノ花蓮製造法ニ倣ヒ對海外輸出ヲ爲サントノ目的ヲ以テ同縣ヨリ教師ヲ聘シ傳習ヲ受ケシメ花蓮製造ニ從事スルニ至リタルモ創業日尙淺ク技能ノ未タ及ハサル所アリ産額モ亦僅少ナルヲ以テ未タ貿易市場ニ顯ハル、ニ至ラスト云フ

五、原料ノ供給

前ニ示スカ如ク産額微々タルニ加ヘ原料蘭草ハ其栽培盛ナル地方ナルヲ以テ供給充分ナリ



六、販出品仕向先

前ニ述ブルカ如ク本品ハ未タ貿易市場ニ表顯スルニ至ラス其製品ハ悉ク地方ニ於テ販賣セラル

十六、蠶

網

(主産地タル松本町ニ於ケル製産狀況ニ付調査セリ)

一、産額

製産數量ハ判明セサレトモ一ヶ年平均ノ製産價額ハ大約五萬圓ヲ下ラスト云フ

二、種類別

製品ノ巾及丈ケハ一定セスト雖トモ目ハ一分、二分、三分、四分目等ニ區別セラル、ナリ

三、主要産地

松 本 町

四、製造戸數及職工數

十八戸(概算)

十五人(一戸ニ對スル平均人員)

製造戸數  
職工數

製造戸數十八戸ト計上セシモ專業者ハ甚タ少數ニシテ多クハ農家ニ於テ農閑ニ製織シ更ニ專業者ノ手ニ依リ仕上ケラル、モノ多ク從テ戸數判然シ難シト雖モ結局前記戸數ニ大差ナキモノ、如シ猶職工數ニ付テモ亦同シ

五、起源及沿革

明治初年ノ頃下高井郡小布施村及上州地方ニテ製シ初メタルモノニ習ヒ當地方ニ於テ製造スルニ至リ爾來年ト共ニ幾多ノ研究ヲ重テ現今蠶網製造ノ基礎ヲ立ツルニ至レリ而シテ其製法ノ巧妙ニシテ價格ノ廉ナルハ殆ト全國ニ比スベキモノナシ

六、製産ノ狀況

本品製造ハ未タ工場組織ニ依ル者ナク何レモ家内工業ニ屬セリ然レトモ動力(水力)ヲ用キ益々盛ニ製造セントテ目下試驗中ニ屬セル者アリト言フ然レトモ今當地方ニ於ケル斯業ノ前途ヲ窺フニ蠶業ノ發達ヨリ推考スレハ逐年需用増加スヘキカ如シ併シナカラ昨今各需用地ニ於テ是カ製造ヲ爲スモノ有ルカ故ニ斯業ノ將來ハ極メテ好望ナリト言ヒ難シ

七、原料ノ需要供給

原料クル綿絲、麻粉、澱汁、紙等ハ當地方及他府縣ヨリ輸入シツ、アリテ是カ供給充分ナリト云フ

八、製産費及收益ノ比較

假リニ賣價一圓トスレハ原料費六十錢製造費三十錢ヲ要シ收益僅カニ十錢アルノミ則チ賣價ニ對シ

原料費	〇.六
製造費	〇.三
收益	〇.一

ノ割合ナリ

九、販出額及仕向地

主トシテ關東各地ニ仕向ケラルレトモ又多少其他全國養蠶地へ販出セラルト云フ

十、販賣手續及取引習慣

本品ヲ販賣スルノ方法トシテハ遠隔セル地方ニ對スル取引ハ委託販賣、代金引換、小包郵便、爲替及行商販賣ニシテ又産地附近ニ在リテハ主トシテ春夏蠶期ニ貸賣シ秋蠶上簇後代金ノ取立ヲ爲スヲ慣例トセリ

十一、長所缺點

長野縣



松本町地方ニ於ケル本品ノ織方ハ八ツ柄法ト云ヒ又其澁染法ハ此地方獨特ノ染法ニシテ未タ他府縣ニ其染法ニ依ルモノナシト言フ

十二、重ナル製造者(松本町)

- 折井泰造 細萱茂一郎
- 百瀬市造 横山瀧次郎
- 石井榮次郎 増田茂吉

(ハ) 其他ノ工産品 (三十八年中)

以上掲ケタルモノ、外本縣ノ工産品トシテハ鐵詰、槍笠、傘、麻織物、綿織物、陶磁器、硝子器、扇子及團扇其他數種アレトモ産額稍ヤ少キモノニ屬セリ今左ニ各品ニ就キ製産狀況等ノ概畧ヲ記スヘシ

一、鐵詰

一、産額	三六〇、二七九個
數	四一、〇九一圓
價額	

二、主要産地

上水内郡、長野市、北佐間郡

三、製造戸數及職工數

戸數	三十九戸
職工數	

職工數

三百二十七人

四、種類

種類ハ重ニ杏、洋桃、栗ノ三種トス

五、事業ノ起厚及沿革

(イ) 杏ハ元祿ノ昔眞田氏此地ヲ領スルヤ上京ノ途次關西地方ヨリ種子ヲ購入シ來リ埴科郡倉科村、森村、雨宮縣村等各地ニ命シテ栽培セシメタルヲ嚆矢トス其後寛政、享和年間ノ頃ニ至リ是カ賣買ノ途ヲ開始シ稍ヤ盛大ヲ來スニ至レリ從テ隣郡各村落ニ波及シ農家競テ栽培スルニ至リ大ニ産額ノ増加ヲ來シタルモ爾來養蠶ノ業漸次盛大ニ赴クニ隨ヒ桑樹植栽ノ爲メ該樹ヲ伐採セラレ其産額ヲ減少セシト雖モ近年交通機關ノ備ハルヤ其販路ヲ擴張シ價格モ亦騰貴シタリ又上水内郡安茂里村モ亦杏ノ産地トシテ名アリ同村ハ長野市ニ接近セルヲ以テ善光寺ノ産物トシ更沙杏ヲ製造シ善光寺參詣者ノ土産トシテ廣ク各地ニ知ラレタリ然レトモ當時ハ多ク乾杏トシ又ハ生果ノマ、販賣セシヲ明治二十五年頃ニ至リ室川某ナルモノ之ヲ鐵詰トシ販賣セシニ大ニ廉價ヲ得需用頓ニ増加シ現今長野市ニ製造所ヲ設ケ盛ニ製造シツ、アリテ將來倍々盛況ニ赴キツ、アリ

(ロ) 洋桃ハ北佐久那三岡村ニ於テ明治二十三年頃始メテ清國種及洋種ノ桃苗ヲ求メ栽培シ生果ノ儘販賣スル目的ナリシモ其後接木法等ニ依リ蕃植シ漸ク栽培ヲ増シ隣村御代田村、小諸町、南大井村、小沼村及北佐都村等ニ於テ盛ニ栽培スルニ至リ産額頓ニ増加シ生果ノ儘ニテハ到底販出シ盡シ難キニ至リシヲ以テ明治三十四年中鐵詰トナシ販賣シタルニ内外人ノ嗜好ニ適シ需用益々増加セシヲ以テ桃養合資會社ヲ起シ現時盛ニ製造シツ、アリテ頗ル有望ナル事業ニ屬シ將來益々其産額ヲ増加セリ本品ハ本縣ノ重要物産ノ一タルヲ失ハス

(ハ) 栗ハ上高井郡小布施村ヲ以テ名アリトス往時ハ盛ナリシモ明治維新以來蠶業ノ隆盛ヲ極ムルト共ニ栗材ヲ伐採シ多



クハ桑園トナシ餘ス所ハ僅々數反歩ニ過キスシテ著シク其産額ヲ減少セリ然レトモ古來栗ノ産地ヲ以テ稱セラレ其生  
産品ハ罐詰ト爲シ販賣シツ、アリト雖モ漸次衰頽ニ傾クノミナリト云フ

六、販路

東京、大阪、新潟其他各府縣ニ販出ス

二、檜 笠

一、産額

數量

八八七、六六二蓋

價額

三五、五一六圓

二、主要産地

西筑摩郡吾妻村大字蘭ノ特産トス

三、製造戸數及職工數

戸數

二百九戸

職工數

八百一人

四、事業ノ起源及沿革

本品ハ今ヨリ三百年前慶長年間飛騨國巨知郡ヨリ麥島某ナル者當地ニ來リ之ヲ製作セシヲ創始トス當時蘭ハ戸數僅ニ  
七戸ニ過キス飽ナルモノナク皆手頭ヲ以テ檜材ヲ割リ剃キ若シ厚薄アレハ小刀ニテ之ヲ補理セシモノニテ明治初年ノ  
頃迄ハ依然トシテ此ノ迂拙ノ方法ヲ以テ斯業ヲ繼續シ來リ而モ其製品頗ル粗惡ニシテ纒カニ附近農家ノ需用ニ供ス

ルノミナリシカ交通ノ便開クルニ隨ヒ頓ニ其需用ヲ増加シ全村舉テ本業ニ從事スルニ至リ爲メニ附近山林ノ檜材ハ年  
々濫伐セラレ殆ト際限ナキニ至レリ而シテ當初本村ハ天領ト稱シ徳川幕府ノ所領ナリシモ享保年間尾張領トナルヤ扁  
柏、明檜、花柏、金松、樺ノ五木ハ其伐採ヲ嚴禁セラル、ニ至リタリシヲ以テ村民止ムナク樺、榎、松ノ如キ樹種ヲ使  
用スルニ至リシカ明治維新以降該林ハ全ク國有林トナリタリシカ故ニ政府ノ拂下ヲ受ケ檜材ヲ用キテ製作シ得而モ技  
術ハ漸次精巧ヲ顯ハシ其需用モ亦増加セリ而シテ本品製産地タル吾妻村大字蘭ハ西筑摩郡吾妻村大字妻籠ヨリ下伊那  
郡飯田町ニ遠スル大平峠ト稱スル沿道ノ一小部落ニシテ山岳重疊狹隘ノ地ニシテ急傾斜ヲ爲シ耕地稀ニシテ他ニ執ル  
ヘキノ業務ナク男子ハ檜材ノ挽割檜突等ノ事ヲ執リ婦女子ハ編組ニ從事ス故ニ若シ斯業ナカリセハ或ハ衣食ノ途ニ迷  
フナシトセス然ルニ檜材濫伐ノ弊アリテ漸ク良材ノ缺乏ヲ告クルニ至リ今ヨリ十數年ノ後ニ及ヘハ或ハ此好原料ヲ得  
ルノ途ナク斯業ノ頽廢スルナキヲ保スヘカラサルモノアリ

五、原料ノ供給

原料タル檜材ハ附近ノ山林ニ屬スル分ハ既ニ伐採シ盡シ現時ハ御料林ヨリ營業資本トシテ拂下ヲ受ケ伐採シツ、  
ト雖モ近傍ノ御料林モ亦良材ノ缺乏ヲ告クルニ至レルヲ以テ他方ニ之ヲ求ムルノ窮境ニ陥ラサルナキヤ甚タ寒心ニ堪  
ヘサルナリ

六、販路

本品ノ販路ハ重ニ名古屋地方ニシテ同地仲買商人ノ手ヲ經テ關東、關西ノ各地ニ販出セラレ地方ニテ販賣スルモノハ  
十分ノ二、三ニ過キス然シテ是カ用途ハ農家ノミノ使用ニ止マルト云フ



一、産 額

數 量

一、二〇九、八八一 本

價 額

二六、八八一 圓

二、主要産地

本品ノ産地ハ下伊那郡神稻村大字阿島ヲ以テ名アリ其他二、三ノ郡ニ於テ製出セルモ僅少ナリ

三、製造戸數及職工數

戸 數

八十五戸

職 工 數

百五十五人

四、製産ノ狀況

下伊那郡神稻村大字阿島生産ノ傘ハ阿島傘ノ名ヲ得テ大ニ賞揚セラル本品製出ノ基因ハ詳カナラサルモ飯田地方ハ紙ノ産地ニシテ紙質強靱ニシテ且眞竹及江南竹ノ良材ヲ産スルヲ以テ蓋シ本品ヲ製作シタルニ因ルナランカ

五、原料ノ供給

原料ノ竹并ニ紙ハ何レモ地方ニ於テ製出スルモノヲ用ヒ製作ス

六、販 路

大阪、名古屋、岐阜ノ各縣等重ナルモノニシテ其他東京地方トス

四、麻 織 物

一、産 額

數 量

二六、二〇八

價 額

一八、二五九 圓

二、主要産地

西筑摩郡、北安曇郡、上水内郡、更級郡等ヲ主ナルモノトス

三、製造戸數及職工數

戸 數

(?)

職 工 數

(?)

四、製産ノ狀況

本品ハ大麻生産地ノ冬季間婦女子ノ副業ニシテ其製作スル所ノモノハ普通生麻布、蚊帳地等ノ粗製品ニシテ未タ精巧ナルモノヲ製作スルニ至ラス

五、原料ノ供給

縣下ニ於テ産出スルモノヲ使用シテ尙餘リアリト云フ

六、販 路

蚊帳地ハ専ラ地方ノ需用ニ供セラル其他多少群馬縣、岐阜縣ニ販出スルモノアリト云フ

五、綿 織 物

一、産 額

數 量

二〇、一三四 段

價 額

一七、八〇七 圓

長野縣



二、主要産地

小縣郡、上伊那郡、其他各郡

三、製造戸數及職工數

戸數	(?)
職工數	(?)

四、製産ノ狀況

本業ハ何レモ家内の工業所謂農家ノ副業ニシテ各郡共冬期農閑ニ於テ婦女子ノ作業ナルヲ以テ將來ノ發達困難ナリ

五、原料ノ供給

原料ハ地方ニ於テ栽培スル所ノ草棉ヲ以テ供給セラル、モ近年ニ至リ大阪又ハ東京ノ紡績絲ヲ使用スルニ至レリ

六、販路

地方ノ需用ニ供給セラル、モノ多ク他ニ販出スルコトナシ

六、陶磁器

一、産額

數	四〇、三三五個
價額	一一、六九〇圓

二、主要産地

上伊那郡、東筑摩郡、更級郡等トス

三、製造戸工及職工數

戸數	二十六戸
職工數	六十二人

四、製産ノ狀況

縣下ニ産出スル所ノ陶磁器ハ瓶其他ノ粗雜品多ク僅カニ上伊那郡ニ於テ製絲用養釜ヲ製作スルヲ最上トシ何レモ家内工業トシテ營マレ大組織ノモノトシテハ一モ見ルベキナシ故ニ生産ノ状態ハ特ニ記スヘキモノナシ

七、硝子器

一、産額

數	一五、五四〇打
價額	一六二、八五〇圓
	一〇、九九〇圓

二、主要産地

長野市、小縣郡等トス

三、製造戸數及職工數

戸數	四戸
職工數	二十三人

四、製産ノ狀況

長野縣



家内工業トシテ營マレ大組織ノモノナク其製作品ハ主トシテ「ランプ」火室、燈類其他内地向日用品ニシテ規模何レモ  
少ナルモノニシテ將來發達ノ見込ナシ

五、販路

地方ノ需用ニ供給セラル、ニ止マリ他ニ販出セス

八、扇子及團扇

一、産額

數量

一一一、五七〇個

價額

二五二四圓

二、主要産地

東筑摩郡松本町トス

三、製造戸數及職工數

戸數

九戸

職工數

三十一人

四、製産ノ狀況

斯業モ亦家内工業トシテ營マレ工場トシテ見ルヘキモノナシ隨テ産額モ亦微々タルモノナリ

五、販路

地方ノ需用ニ供スルノミニテ他ニ販出セス

明治四十年八月二十六日印刷

明治四十年九月十二日發行

農商務省商工局

東京市京橋區鈴木町二番地

印刷者 石丸鐵三郎

東京市京橋區鈴木町二番地

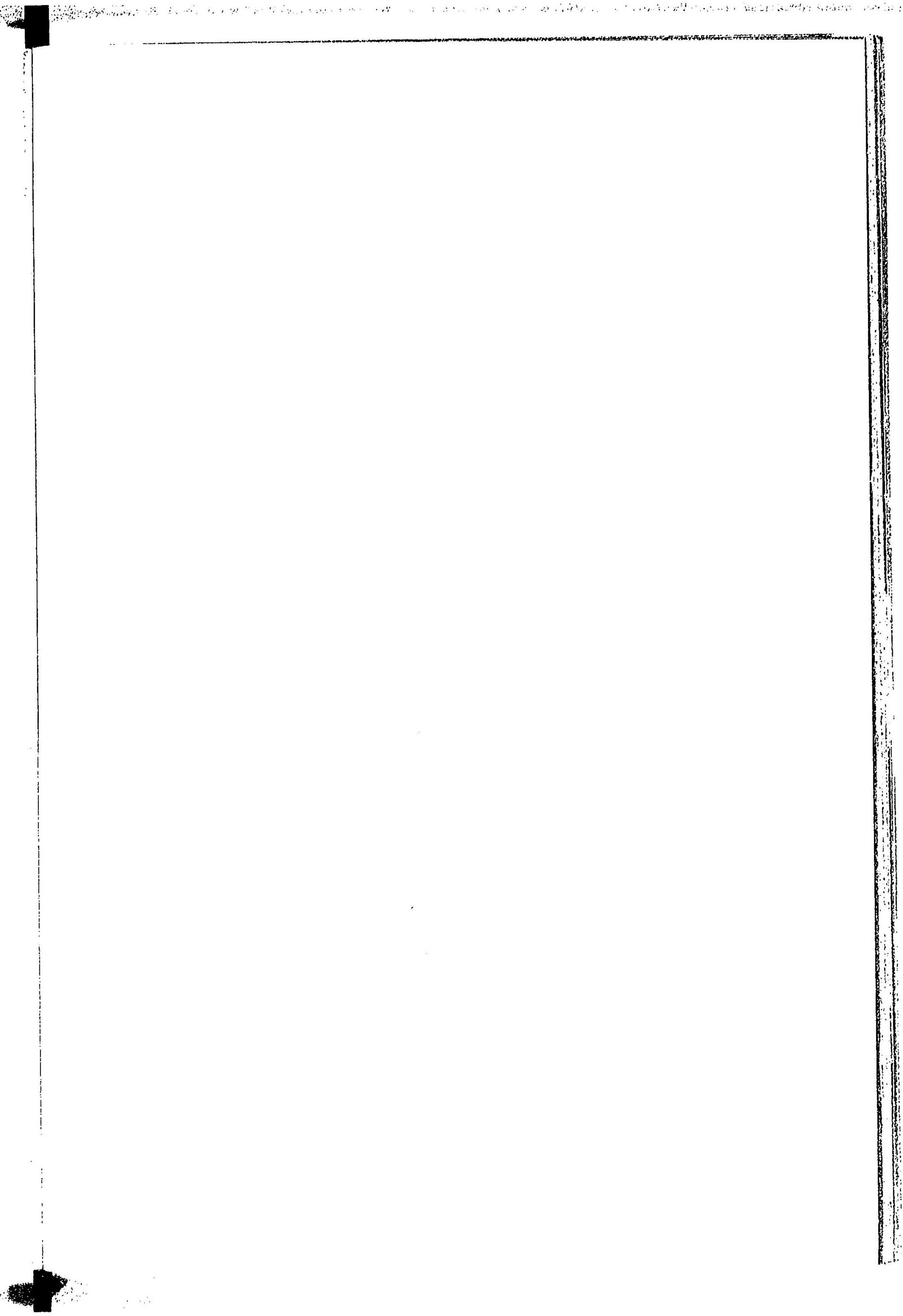
印刷所 東亞印刷株式會社

電話本局(二三四四番)

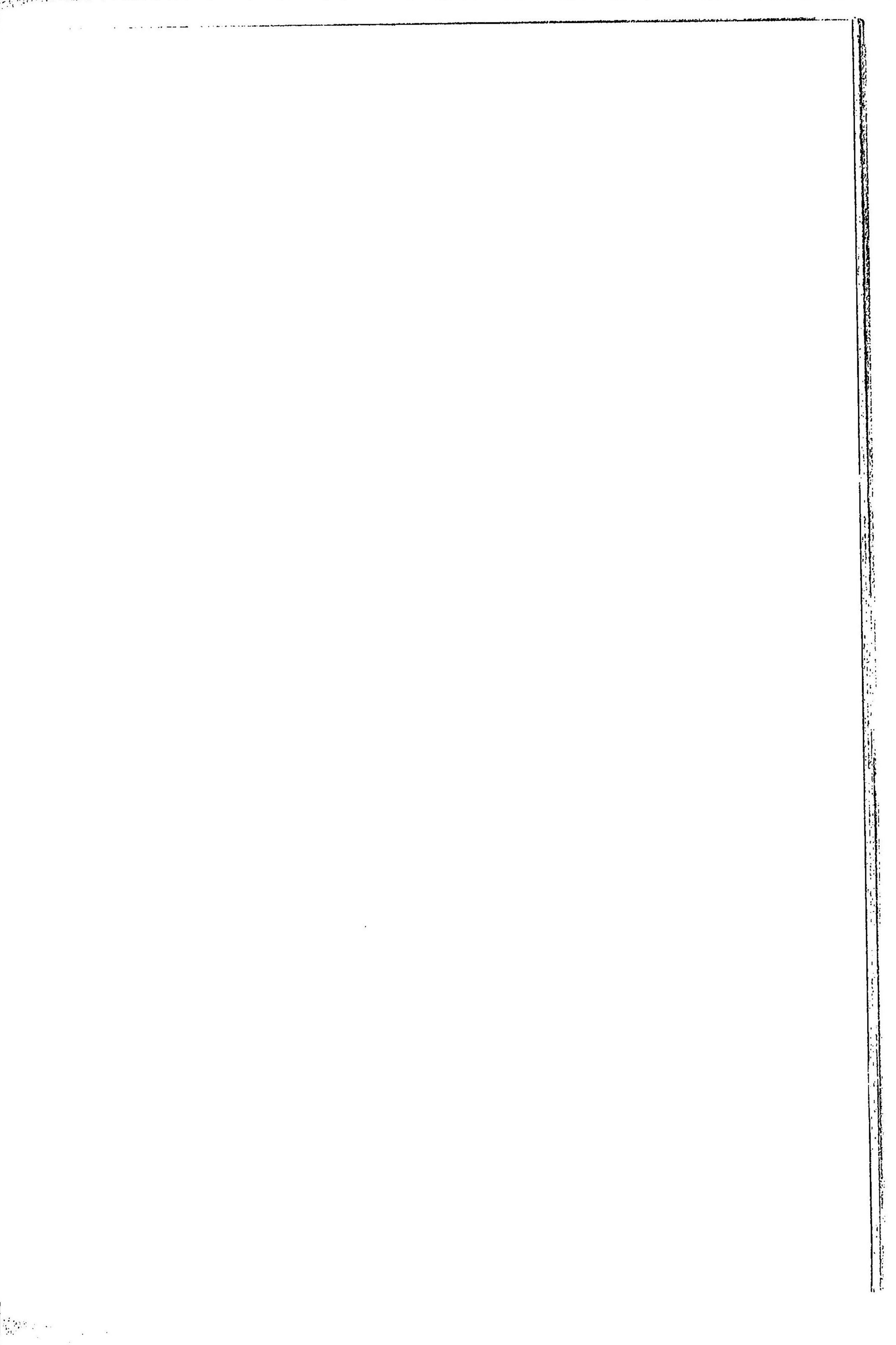
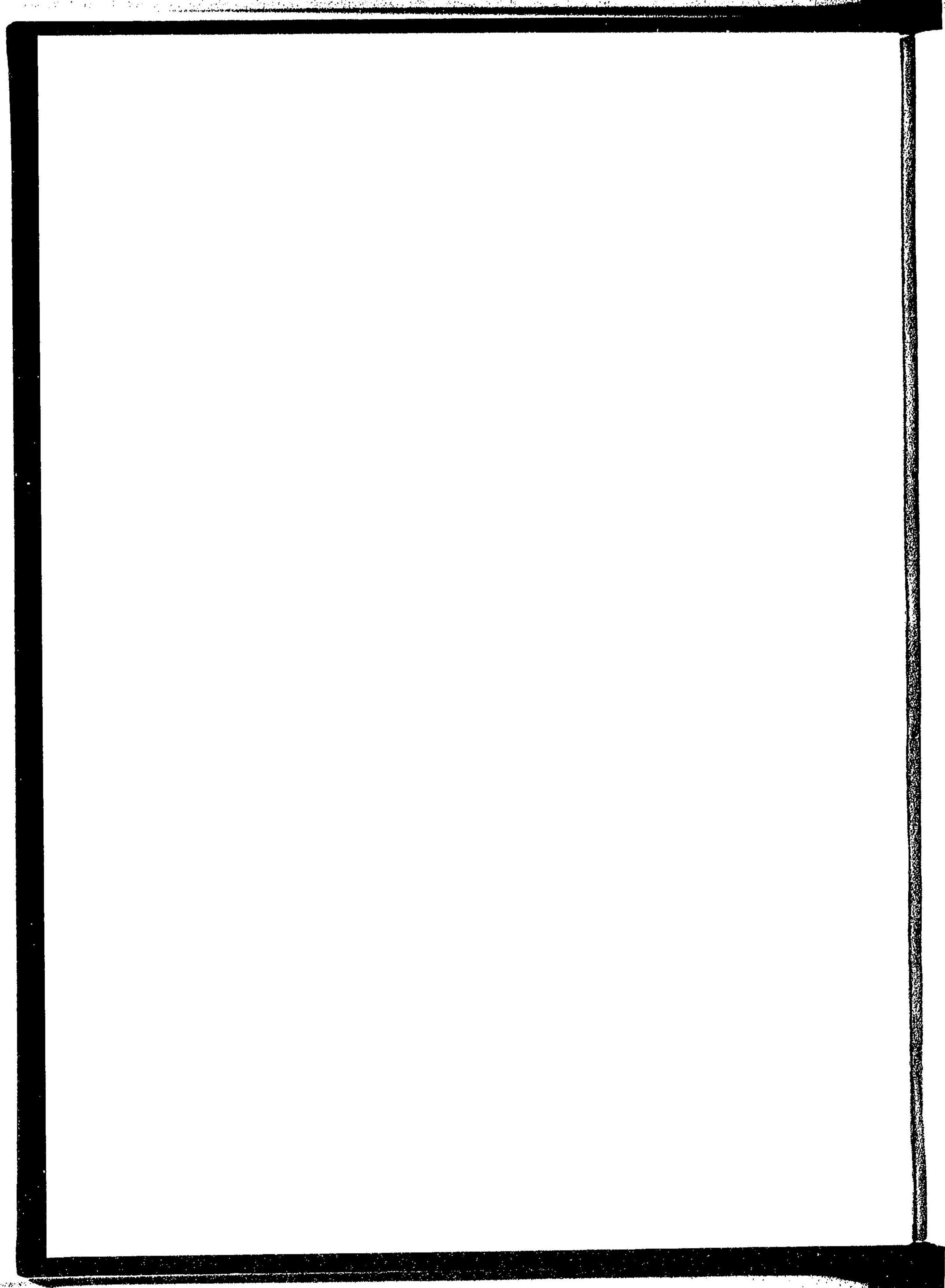


IK1B98

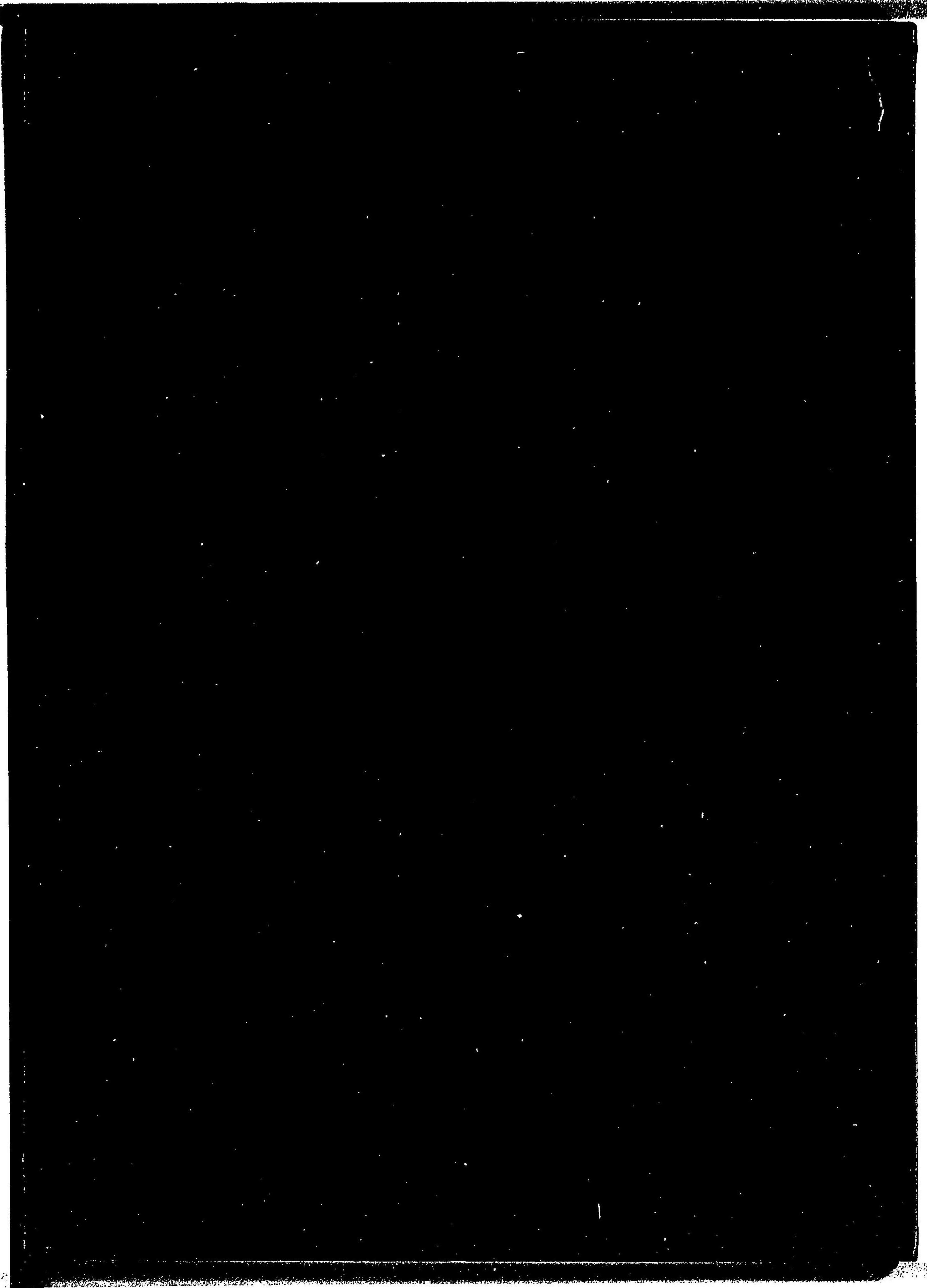














321

42



